



# 名寄市立大学の窓から知への誘い

## 「学校給食の歴史と役割(2)」

保健福祉学部 栄養学科

准教授 黒河 あおい

vol.30

昭和50年代中頃になると米飯給食が導入されました。理由の一つとして児童生徒の健康状態の課題がありました。昭和30年代〜40年代にかけての食生活の西洋化により高脂肪食を続けた結果、日本全国で成人病（現在の生活習慣病）が増えてしまいました。これは成人だけのものではなく、児童生徒にも「小児肥満」が増加しました。

この現象は深刻で、入院による治療を受ける子どもも出現しました。このため文部科学省では学校給食における栄養摂取基準値を改訂し、特に脂質の必要量を減少させました。さらに献立の検討において脂質が多くなる「洋食・パン食」のみではなく、「和食・米飯」が見直されました。米飯により、汁物・主菜・副菜はあらずと和風となり脂質過剰は避けられます。週5日の給食において、米飯・パン・め



▲バイキング給食

んを組み合わせることにより成長期に必要な栄養は確保し、かつ小児肥満を予防すると考えられます。こうして学校給食における米飯は、現在推奨する「日本型食生活」の面でも必要であり引き続き実施されています。平成10年頃から実施されたバイキング給食やセレクト給食は「楽しんで食べる」という以外に、多様な食生活の中で自分に必要な物を選び、自分の健康を自分で管理できる人間になつてもらう目的も含まれています。

さらに近年は、食物アレルギーを持つ児童生徒が多いため、学校給食での対応も余儀なくされています。また、栄養面のみではなく、ランチルームでの喫食や食器・器具など給食をとりまく食環境も多様化し続けながら、学校給食誕生から120年を迎え、現在に至っています。

食生活の多様化・生活様式の変化と共に児童生徒の体位体格、健康課題が変化したため、学校給食の目的も変化させなければなりません。よって、平成20年10月学校給食の摂取基準が改訂され、学校給食の役割は家庭で不足しがちな栄養素を補う「こと」に加えて「児童生徒の食生活実態調査の結果を踏まえ、より実態に即した基準にする」という新たな目的が加わりました。一方、学校給食が教育活動として考えられるようになったのは戦後であり、学

習指導要領において給食指導は「学級活動」として特別活動に位置づけられています。学校給食の教育的意義は次のとおりで、給食時間や授業において「食に関する指導」が実施されています。

### 学校給食の教育的意義

- 児童生徒の健康増進、体位向上および正しい食習慣の形成を図る
- 児童生徒間や教師と児童生徒の心の触れ合いの場をつくる
- 児童生徒に集団生活を体得させ、協同・協調の精神を身につけさせる

学校における「食に関する指導」は各教科の時間で食に関する知識を教え、その知識が給食を繰り返し食べることににより、望ましい食習慣の形成に結びつき、実践的な態度の育成をすることにあります。従って、学校給食は児童生徒への「食に関する指導」の「生きた教材」として重要な教育的意義が高まり、その役割を果たすことが今後ますます期待されています。

## 大学図書館へようこそ！

大学図書館では本学看護学科の学生だけではなく、現職の看護師の方でも「CINAHL」や「<sup>シナール</sup>医中誌Web」「最新看護索引Web」などの看護関連分野文献検索サービスを利用することができます。

大学図書館に読みたい文献がない場合は取り寄せしますので、遠慮なくカウンターに申し込みください。

また、卒業生の支援として文献の郵送サービスを行っています。詳しくは、大学図書館ホームページの「卒業生の方へ」をご覧ください。



## 大学図書館にはこんな本があります

### ～～図書館員のおすすめ図書～～

『セツ先生の早わかり看護研究ヒミツの扉を開くカギ20  
なんで私が？どうすれば？困っているあなたに』  
下山節子・江藤節代 メディカ出版  
『ナラティブとかエビデンスとか看護研究とか、さっぱり  
わかんない！というナースのためのナラティブ医療学入門』  
齋藤清二 日本看護協会出版会

●問い合わせ 名寄市立大学図書館 ☎ 01654②4199  
本館：内線3114 分館：内線2200  
HP <http://www.nayoro.ac.jp/organization/library/>